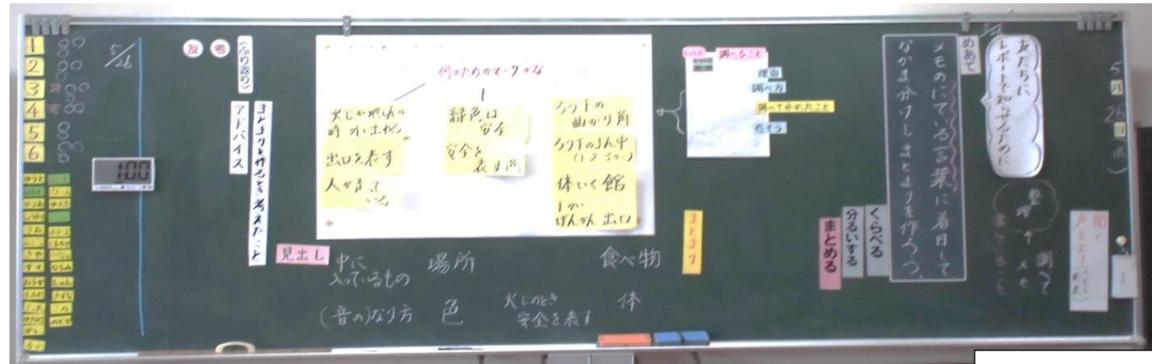
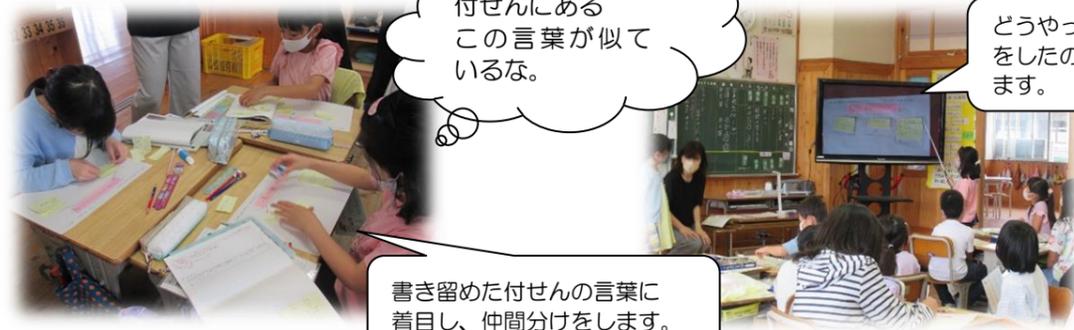


今年度、最初の研究授業を才市先生に行っていただきました。本単元は、学校生活で気になるものについて、調べて分かったことをレポートに書いて伝えるという単元ゴールを設定していました。授業と事後研究の様子をお知らせします。本時は、6/10時間目です。

**単元名 「ふしぎ?なぜ?調べたい!中村小の〇〇レポート」全10時間**  
**教材名 「調べて書こう、わたしのレポート」 3年2組 才市 美奈 教諭**  
**身に付けさせたい資質・能力: 調べて分かったことを内容のまとまりで整理し、構成を考えて書く力**



本時の板書 6/10



付せんにあるこの言葉が似ているな。

どうやって仲間分けをしたのかを説明します。

書き留めた付せんの言葉に着目し、仲間分けをします。

### 授業者のリフレクションシートより

**主・対** 1時間の学習で、自分が何ができたか、まだできていないことは何か具体的に振り返らせることが重要だと感じた。対話で、自分の考えを表出できるように「本当にできていると言えるのかな」など投げかけていく。

**課題** 調べて分かったことの部分を一度書いてみる→書けないと自覚し、必要性を感じて集めた情報を取捨選択し、整理していく展開をすべきだった。

**見・考** 「どの言葉から考えたの?」など自分の分類・整理はどのように考えたか、又、捉え直しにつながるような発問をすべきだった。

### 授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

#### 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習の設定

- 教師の説明が少なく、児童にまずやらせているところが良かった。
- 書いた付せんを活用して、対話している児童の姿が見られた。
- ▼個々のテーマで調べているので個々の主体は見られたが、学級全体の主体はどうであったか。調べていることが様々なので共有しづらいところがあったのではないか。
- ▼困っている児童を取り上げて広げていくとよかった。



#### 2 児童が本気になる課題の工夫

- 身近な課題を取り上げ、他教科とも関連させた自由度のあるテーマ設定が意欲につながっていた。

#### 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立て

- 思考ツールの活用
- 比較・分類するための手立てとして付せんの活用が有効であった。
- ▼活動前の教師の説明の際、言葉にこだわらせる着眼点(目の付けどころ)を示すとよかった。
- ▼たくさんの付せんに書かれた情報をどこまで整理させるのか。
- ▼言葉にこだわらせるために、言葉に線を引くと良かった。

### 間指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

#### ○「見方・考え方」を引き出す「進める問い」と「戻す問い」(齊藤先生の講話から授業を振り返って)

- ・自分のなぜ?(子どもらしい疑問)を調べられたことが良かった。
- ・先生は、子どもの様子をしっかり把握して取り上げていた。そこで、何を振り返らせたいのかをはっきりしておく。
  - \*分類の時の「いらぬやつがある。」という発言→なぜ、いらぬの?と問い返すと、伝えたいことの中心に合っていないのか、他のものと似ているからか明らかになる。(進める問い)
  - \*子どもが分類したものについて説明→どの言葉で分類したのか言葉に線を引かせ、可視化する。友達の分類の仕方を基に、他の子どもには本当にこの分類でいいのか問い返す。(戻す問い)

#### ○「まとまり→見出し」?「見出し→まとまり」?

- ・どこをねらうかによって学習活動が変わるため、「收拾した情報から伝えたいことを明確にするのか」「書く内容のからまとまりをつくるのか」ねらいに合った活動を設定すること。

本気になる課題の工夫、思考ツールの活用など、これまで中村小が取り組んできた国語科の授業を共有するとともに、能力ベースの授業づくりを進めていく中で大切にしていかなければならないこと(子ども主体、問いの工夫等)を、才市先生の研究授業を通してたくさん学ぶことができました。「見方・考え方」を明確にし、それを働かせる児童の姿を具体的にしながら、今後も研究を進めていきたいと思えます。

日々の授業で、「進める問い」「戻す問い」を仕組み、子ども主体の学習活動を目指して行きましょう。才市先生の子どもの様子をしっかり見取り、子どもの声を取り上げながら授業を進められているところなど、教えていただいたことの多い授業実践でした。才市先生、今年度最初の研究授業をありがとうございました。